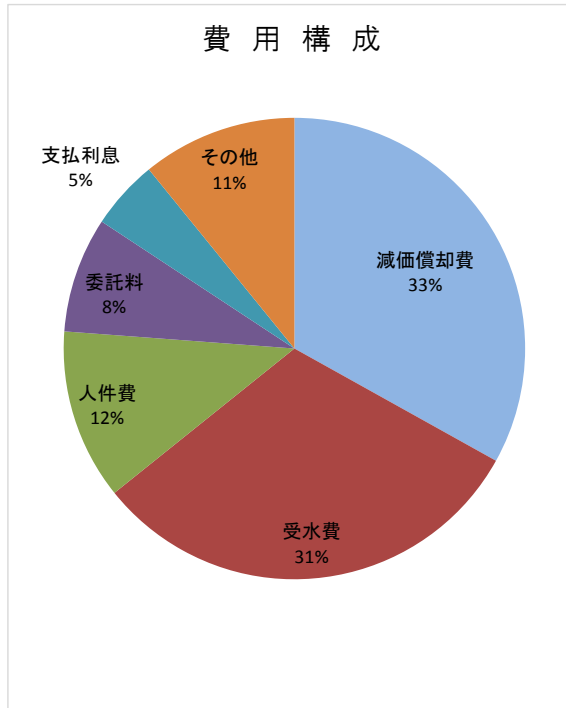
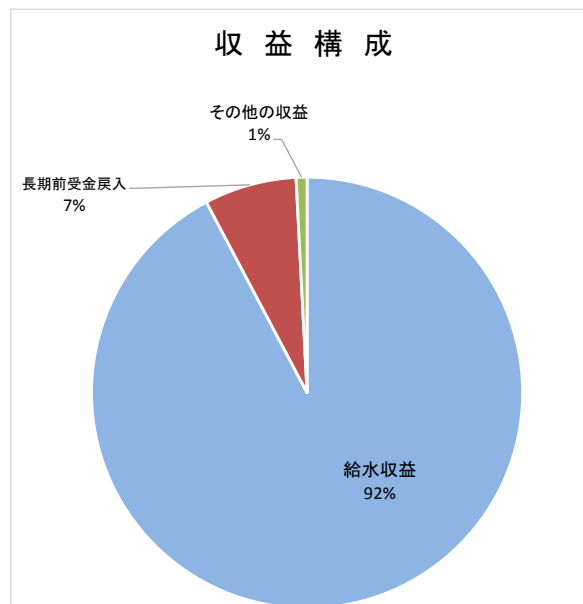


天理市水道事業の財政状況

(1)平成28年度 水道事業費用構成



(2)平成28年度 水道事業収益構成



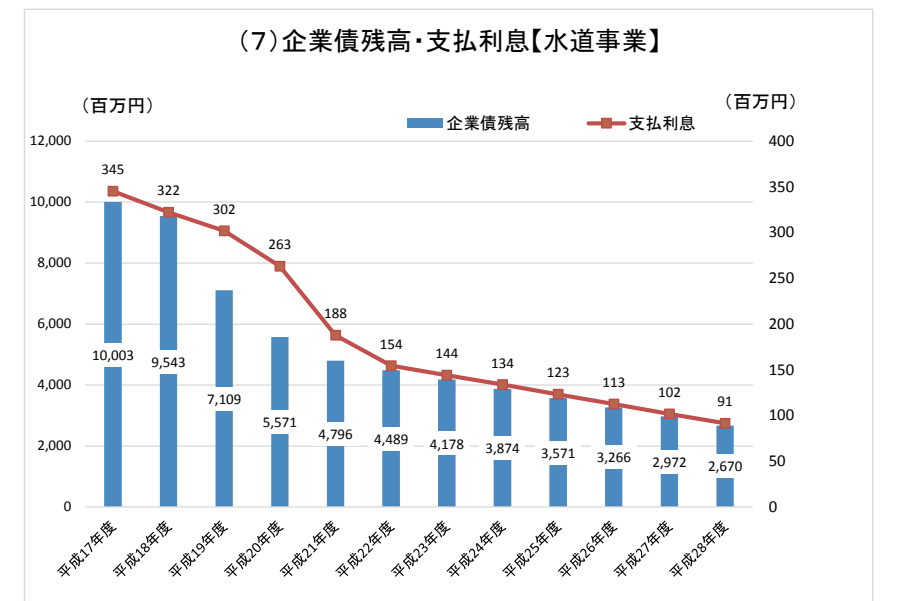
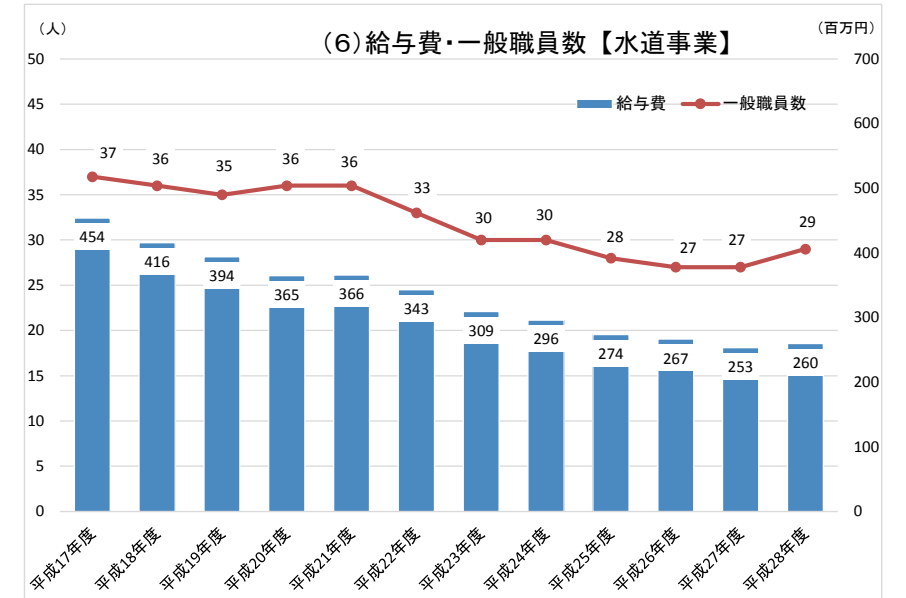
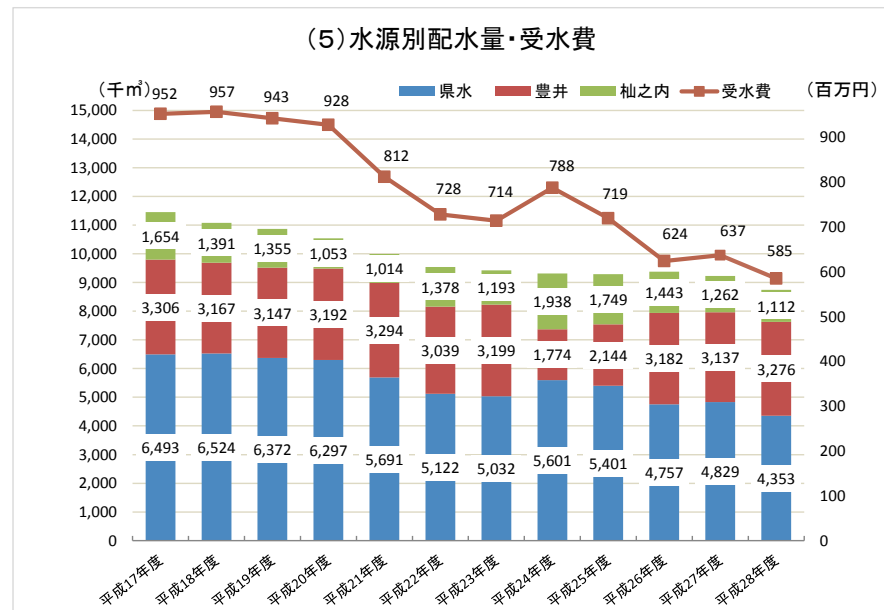
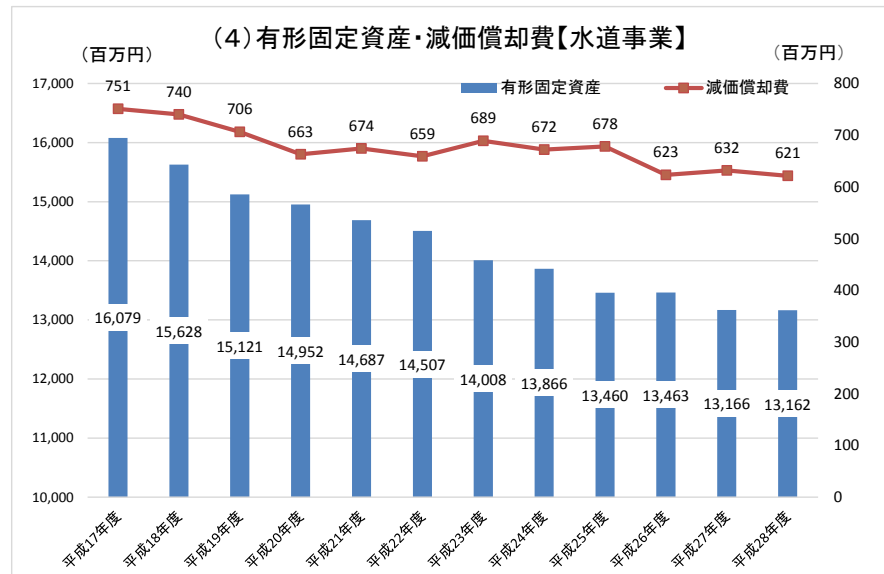
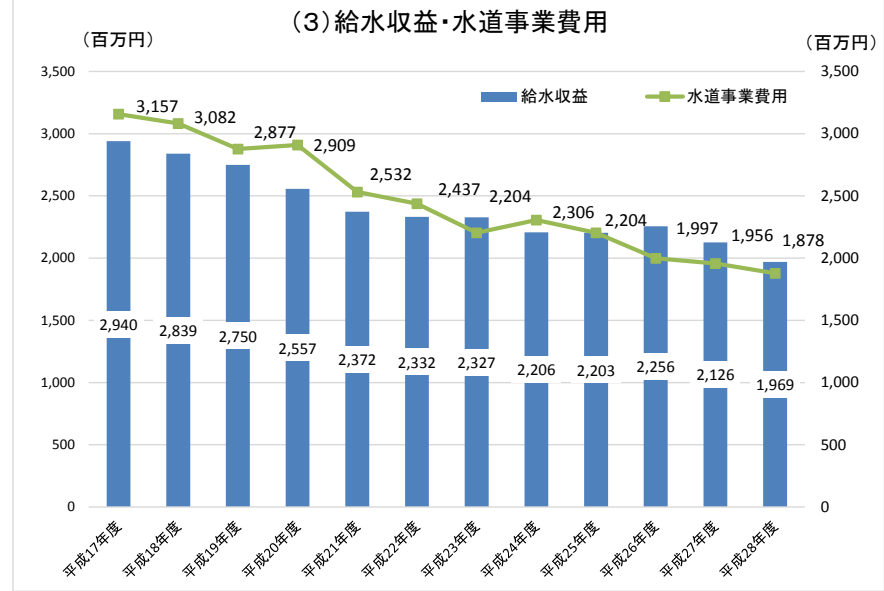
表一 費用内訳

項目	費用構成	比率
減価償却費	621,403	33%
受水費	585,000	31%
人件費	224,366	12%
委託料	151,880	8%
支払利息	91,418	5%
その他	203,985	11%
合計 (A)	1,878,052	100%

表二 収益内訳

項目	収益構成	比率
給水収益	1,969,045	92%
長期前受金戻入	147,748	7%
その他の収益	17,395	1%
合計 (B)	2,134,188	100%

平成28年度 純利益 ((B)-(A))	256,136 千円
長期前受金戻入を除いた純利益	108,388 千円



平成28年度天理市水道事業損益計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(消費税及び地方消費税抜き)

(単位：円)

1 営業収益			
(1) 給水収益	1,969,044,645		
(2) 受託工事収益	3,449,000		
(3) その他営業収益	<u>2,066,744</u>	1,974,560,389	
2 営業費用			
(1) 原水及び浄水費	848,251,216		
(2) 配水及び給水費	141,631,508		
(3) 受託工事費	3,021,000		
(4) 総係費	144,139,548		
(5) 減価償却費	621,403,342		
(6) 資産減耗費	26,999,763		
(7) その他営業費用	<u>3</u>	<u>1,785,446,380</u>	
営業利益			189,114,009
3 営業外収益			
(1) 受取利息	5,887,434		
(2) 他会計補助金	4,931,977		
(3) 長期前受金戻入	147,748,185		
(4) 雑収益	<u>947,393</u>	159,514,989	
4 営業外費用			
(1) 支払利息	91,418,011		
(2) 雑支出	<u>797,208</u>	<u>92,215,219</u>	<u>67,299,770</u>
経常利益			256,413,779
5 特別利益			
(1) 固定資産売却益	0		
(2) 過年度損益修正益	<u>112,705</u>	112,705	
6 特別損失			
(1) 固定資産売却損	0		
(2) 過年度損益修正損	<u>390,420</u>	<u>390,420</u>	<u>△277,715</u>
当年度純利益			256,136,064
その他未処分利益剰余金変動額			<u>288,398,682</u>
当年度未処分利益剰余金			<u><u>544,534,746</u></u>

平成28年度天理市水道事業貸借対照表

(平成29年3月31日)

(消費税及び地方消費税抜き)

(単位：円)

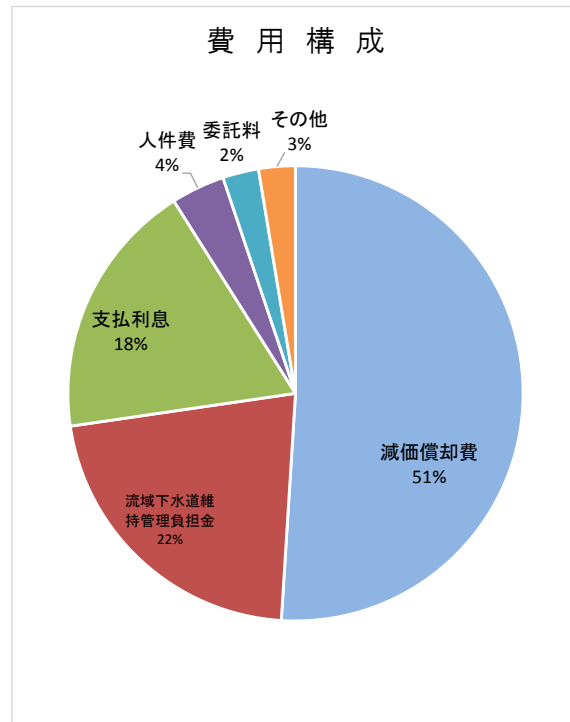
資 産 の 部		
1 固定資産		
(1) 有形固定資産		
イ 土 地	523,431,477	
ロ 建物	1,398,560,954	
減価償却累計額	<u>△575,302,432</u>	823,258,522
ハ 構築物	22,172,802,448	
減価償却累計額	<u>△11,018,074,685</u>	11,154,727,763
ニ 機械及び装置	3,907,983,682	
減価償却累計額	<u>△3,350,586,965</u>	557,396,717
ホ 車両及び運搬具	27,963,820	
減価償却累計額	<u>△20,061,251</u>	7,902,569
ヘ 工具、器具及び備品	72,162,357	
減価償却累計額	<u>△56,441,878</u>	15,720,479
ト 量水器	76,644,507	
減価償却累計額	<u>△37,427,656</u>	39,216,851
チ 建設仮勘定	40,427,000	
有形固定資産合計		13,162,081,378
(2) 投資		
イ その他投資	900,000,000	
投資合計		<u>900,000,000</u>
固定資産合計		14,062,081,378
2 流動資産		
(1) 現金預金		2,493,675,051
(2) 未収金		258,228,976
貸倒引当金	<u>△ 14,669,485</u>	243,559,491
(3) 貯蔵品		7,144,564
(4) 前払費用		<u>24,280</u>
(5) 前払金		
流動資産合計		<u>2,744,403,386</u>
資産合計		<u><u>16,806,484,764</u></u>

負 債 の 部

3 固定負債		
(1) 企業債		
イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>2,365,839,389</u>	
企業債合計		2,365,839,389
(2) 引当金		
イ 退職給付引当金	390,968,766	
ロ 修繕引当金	<u>324,097,246</u>	
引当金合計		<u>715,066,012</u>
固定負債合計		3,080,905,401
4 流動負債		
(1) 企業債		
イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>304,513,081</u>	
企業債合計		304,513,081
(2) 未払金		334,151,083
(3) 前受金		3,914,400
(4) 引当金		
イ 賞与引当金	<u>18,081,000</u>	
引当金合計		18,081,000
(5) その他流動負債		
イ 預り金	<u>143,945,859</u>	
その他流動負債合計		<u>143,945,859</u>
流動負債合計		804,605,423
5 繰延収益		
(1) 長期前受金		2,759,081,014
(2) 長期前受金額		<u>△ 277,237,274</u>
繰延収益合計		<u>2,481,843,740</u>
負債合計		<u><u>6,367,354,564</u></u>
資 本 の 部		
6 資本金		
(1) 資本金		
イ 固有資本金	17,670,482	
ロ 出資金	3,266,792,782	
資本金合計		<u>8,969,432,354</u>
資本金合計		8,969,432,354
7 剰余金		
(1) 資本剰余金		
イ 受贈財産評価額	5,313,558	
ロ 工事負担金	305,498,064	
ハ 分担金	46,256,379	
ニ 寄附金	<u>487,031,965</u>	
資本剰余金合計		844,099,966
(2) 利益剰余金		
イ 減債積立金	81,063,134	
ロ 当年度未処分利益剰余金	<u>544,534,746</u>	
利益剰余金合計		<u>625,597,880</u>
剰余金合計		<u>1,469,697,846</u>
資本合計		<u>10,439,130,200</u>
負債資本合計		<u><u>16,806,484,764</u></u>

天理市下水道事業の財政状況

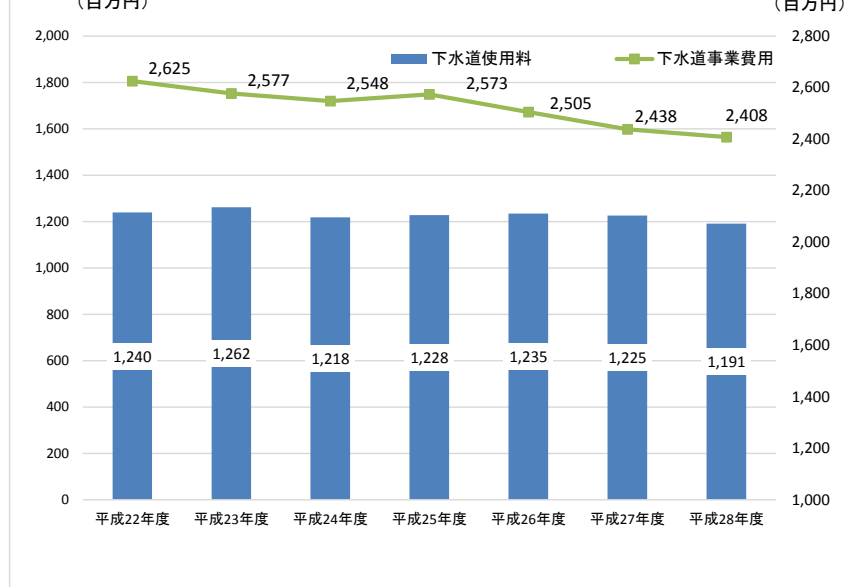
(1)平成28年度 下水道事業費用構成



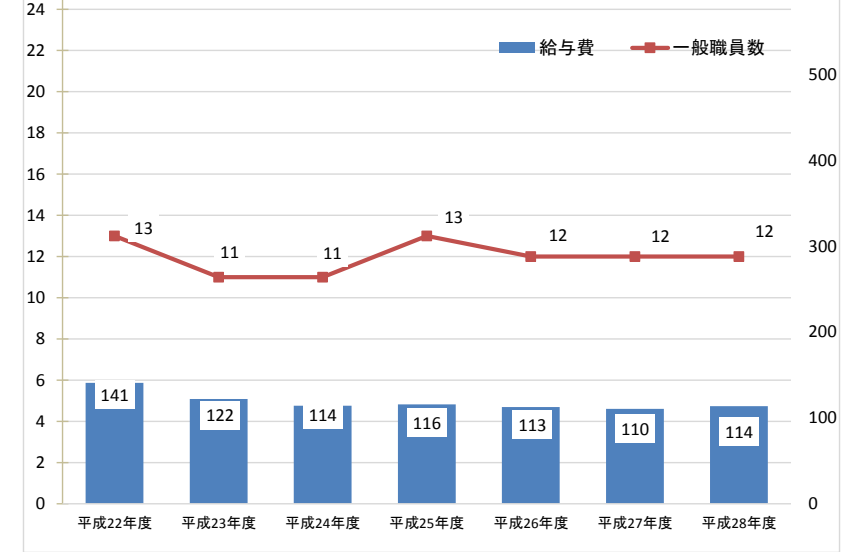
表一 費用内訳

項目	費用構成	比率
減価償却費	1,227,989	51%
流域下水道維持管理負担金	522,443	22%
支払利息	441,366	18%
人件費	91,831	4%
委託料	61,550	2%
その他	62,729	3%
合計 (A)	2,407,908	100%

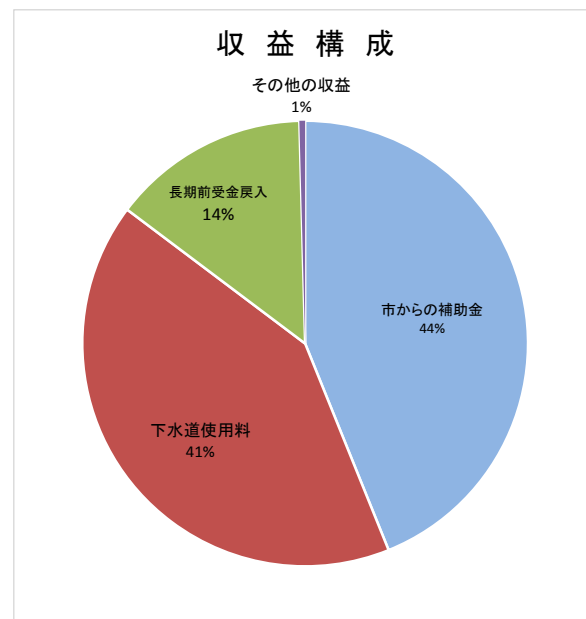
(3) 下水道使用料・下水道事業費用



(5) 給与費・一般職員数【下水道事業】



(2)平成28年度 下水道事業収益構成

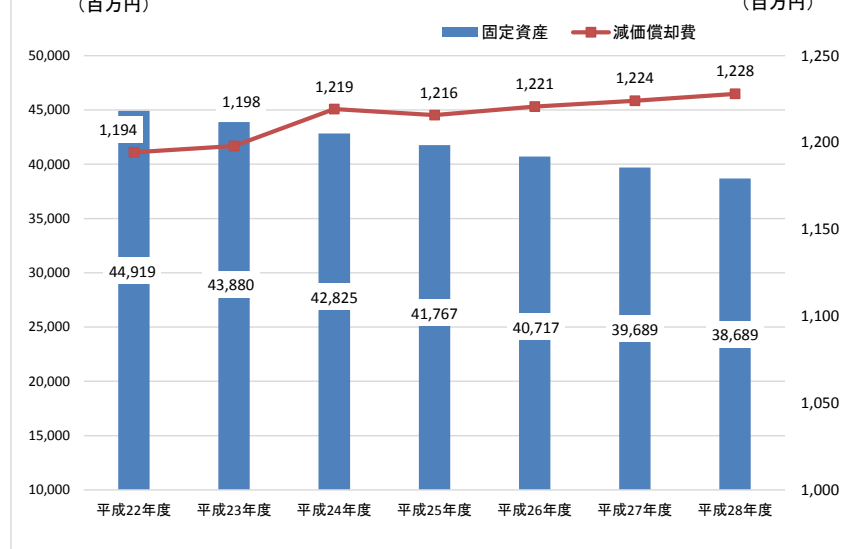


表二 収益内訳

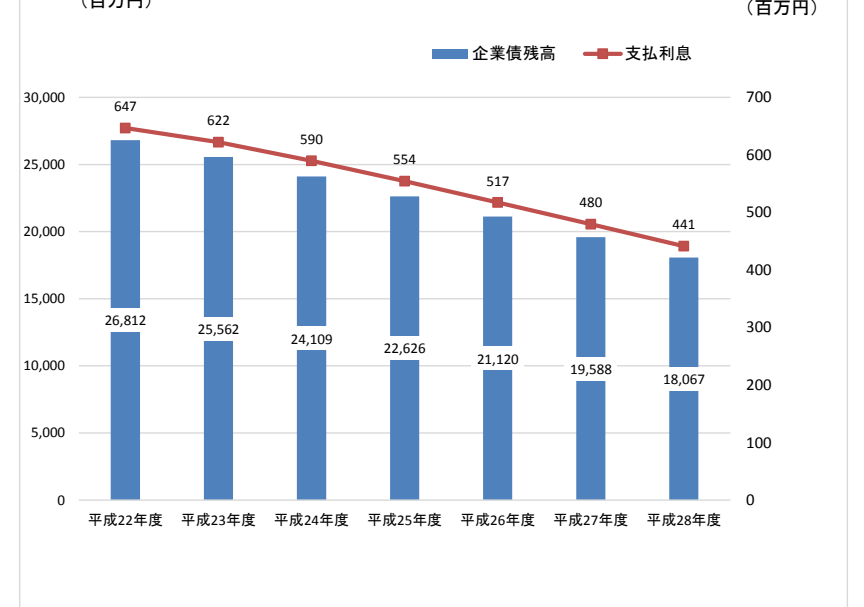
項目	収益構成	比率
市からの補助金	1,263,615	44%
下水道使用料	1,191,495	41%
長期前受金戻入	412,239	14%
その他の収益	11,910	1%
合計 (B)	2,879,259	100%

平成28年度 純利益 ((B)-(A))	471,351 千円
長期前受金戻入を除いた純利益	59,113 千円

(4) 固定資産・減価償却費【下水道事業】



(6) 企業債残高・支払利息【下水道事業】



平成28年度天理市下水道事業損益計算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(消費税及び地方消費税抜き)

(単位：円)

1 営業収益			
(1) 下水道使用料	1,191,494,529		
(2) 他会計負担金	35,149,642		
(3) その他営業収益	<u>70,550</u>	1,226,714,721	
2 営業費用			
(1) 管渠費	66,517,038		
(2) 農業集落排水施設維持費	22,609,037		
(3) 雨水ポンプ場費	7,301,351		
(4) 流域下水道維持管理負担金	522,442,754		
(5) 業務費	37,269,650		
(6) 総係費	78,411,187		
(7) 減価償却費	1,227,989,213		
(8) 資産減耗費	<u>889,633</u>	<u>1,963,429,863</u>	
営業損失			736,715,142
3 営業外収益			
(1) 受取利息	1,305,619		
(2) 他会計補助金	1,228,465,378		
(3) 県補助金	10,047,661		
(4) 長期前受金戻入	412,238,715		
(5) 雑収益	<u>487,109</u>	1,652,544,482	
4 営業外費用			
(1) 支払利息	441,366,155		
(2) 雑支出	<u>2,978,554</u>	<u>444,344,709</u>	<u>1,208,199,773</u>
経常利益			471,484,631
5 特別利益			
(1) 過年度損益修正益	<u>0</u>	0	
6 特別損失			
(1) 過年度損益修正損	<u>133,380</u>	<u>133,380</u>	<u>△133,380</u>
当年度純利益			<u>471,351,251</u>
その他未処分利益剰余金変動額			<u>126,543,248</u>
当年度未処分利益剰余金			<u><u>597,894,499</u></u>

平成28年度天理市下水道事業貸借対照表

(平成29年3月31日)

(消費税及び地方消費税抜き)

(単位：円)

資 産 の 部			
1 固 定 資 産			
(1) 有形固定資産			
イ 土 地		137,328,938	
ロ 建物	190,958,037		
減価償却累計額	<u>△36,000,010</u>	154,958,027	
ハ 構築物	43,141,467,072		
減価償却累計額	<u>△7,414,556,295</u>	35,726,910,777	
ニ 機械及び装置	1,309,633,851		
減価償却累計額	<u>△474,002,488</u>	835,631,363	
ホ 車両及び運搬具	3,981,165		
減価償却累計額	<u>△1,616,547</u>	2,364,618	
ヘ 工具、器具及び備品	12,641,936		
減価償却累計額	<u>△4,332,351</u>	8,309,585	
ト 建設仮勘定		<u>15,562,000</u>	
有形固定資産合計			36,881,065,308
(2) 無形固定資産			
イ 地上権		176,102	
ロ 電話加入権		260,000	
ハ 施設利用権		<u>1,807,546,040</u>	
無形固定資産合計			1,807,982,142
(3) 投 資			
イ 長期貸付金		4,029,760	
ロ 基金		<u>45,970,240</u>	
投資合計			<u>50,000,000</u>
固定資産合計			<u>38,739,047,450</u>
2 流 動 資 産			
(1) 現金預金			
		852,685,282	
(2) 未 収 金			
貸倒引当金		280,901,651	
		<u>△6,484,604</u>	274,417,047
(3) 前 払 金			
		<u>33,200,000</u>	
流動資産合計			<u>1,160,302,329</u>
資産合計			<u>39,899,349,779</u>

負 債 の 部			
3 固 定 負 債			
(1) 企 業 債			
イ 建設改良費等の財源に 充てるための企業債		<u>16,572,454,566</u>	
企業債合計			16,572,454,566
(2) 引 当 金			
イ 退職給付引当金		<u>28,902,744</u>	
引当金合計			<u>28,902,744</u>
固定負債合計			16,601,357,310
4 流 動 負 債			
(1) 企 業 債			
イ 建設改良費等の財源に 充てるための企業債		<u>1,494,227,614</u>	
企業債合計			1,494,227,614
(2) 未 払 金			
			57,384,398
(3) 前 受 金			
			15,075,000
(4) 引 当 金			
イ 賞与引当金		<u>8,314,000</u>	
引当金合計			8,314,000
(5) その他流動負債			
イ 預り金		<u>57,057,939</u>	
その他流動負債合計			<u>57,057,939</u>
流動負債合計			1,632,058,951
5 繰 延 収 益			
(1) 長期前受金			
			13,663,803,999
(2) 長期前受金 収益化累計額			
			<u>△ 1,232,548,823</u>
繰延収益合計			<u>12,431,255,176</u>
負債合計			<u>30,664,671,437</u>
6 資 本 金			
(1) 資 本 金			
イ 固有資本金		3,113,682,326	
ロ 出 資 金		1,400,395,175	
ハ 組入資本金		<u>3,935,867,639</u>	
資本金合計			<u>8,449,945,140</u>
資本金合計			8,449,945,140
7 剰 余 金			
(1) 資 本 剰 余 金			
イ 受贈財産評価額		1,380,787	
ロ 国庫補助金		167,433,365	
ハ 県補助金		<u>18,024,551</u>	
資本剰余金合計			186,838,703
(2) 利 益 剰 余 金			
イ 当年度未処分 利益剰余金		<u>597,894,499</u>	
利益剰余金合計			<u>597,894,499</u>
剰余金合計			<u>784,733,202</u>
資本合計			<u>9,234,678,342</u>
負債資本合計			<u>39,899,349,779</u>

財政収支(比較)シミュレーション

平成29年12月1日作成

天理市上下水道局

○天理市上下水道局では、今後、水道施設及び水道管路の老朽化が進んでいくことから、安全な水道水を安定的に供給し続けていくため、平成28年度に天理市水道施設全体の更新に係る中長期の基本計画（天理市水道施設更新基本計画）を策定しました。

その計画に基づいて、財政面との整合を図るため財政収支見通しとして（1）料金を据置いたケースと（2）財源を確保したケース①・（3）財源を確保したケース②の計3ケースのシミュレーションを行い検討し、前回の経営審議会で報告させていただきました。

当初シミュレーションの結果(平成28年度決算前)

（1）料金を据置いたケースでは、収益的収支は当年度純損益が平成28年度（2016年度）から継続的にマイナスになり、資金残高は平成38年度（2026年度）からマイナスになりました。

（2）財源を確保したケース①では、収益的収支は平成28年度、平成29年度、平成30年度、平成31年度に純損失が発生するため、平成32年度（2020年度）に10.0%増の料金改定を試算し、今後40年で4回の料金改定が必要と想定されました。また、資金残高はマイナスにならずに、財源が確保でき企業債残高は減少しました。

（3）財源を確保したケース②では、収益的収支は平成28年度、平成29年度、平成30年度、平成31年度に純損失が発生するため、平成32年度（2020年度）に15.0%増の料金改定を試算し、今後40年で3回の料金改定が必要と想定されました。また、資金残高はマイナスにならずに、財源が確保でき企業債残高は減少しました。

○しかし、平成28年度決算では年間有収水量の減少が当初予測に比べ小さかったことから1億円余りの純利益となり平成29年度についても黒字の見通しであるので、水需要予測を上方修正しシミュレーションを行い比較検討しました。

I 水需要予測の比較

○水需要は平成28年度の決算において、当初に予測を立てた年間有収水量の減少に比べ小さかったため、上方修正を加え当初の予測水量と比較しました。

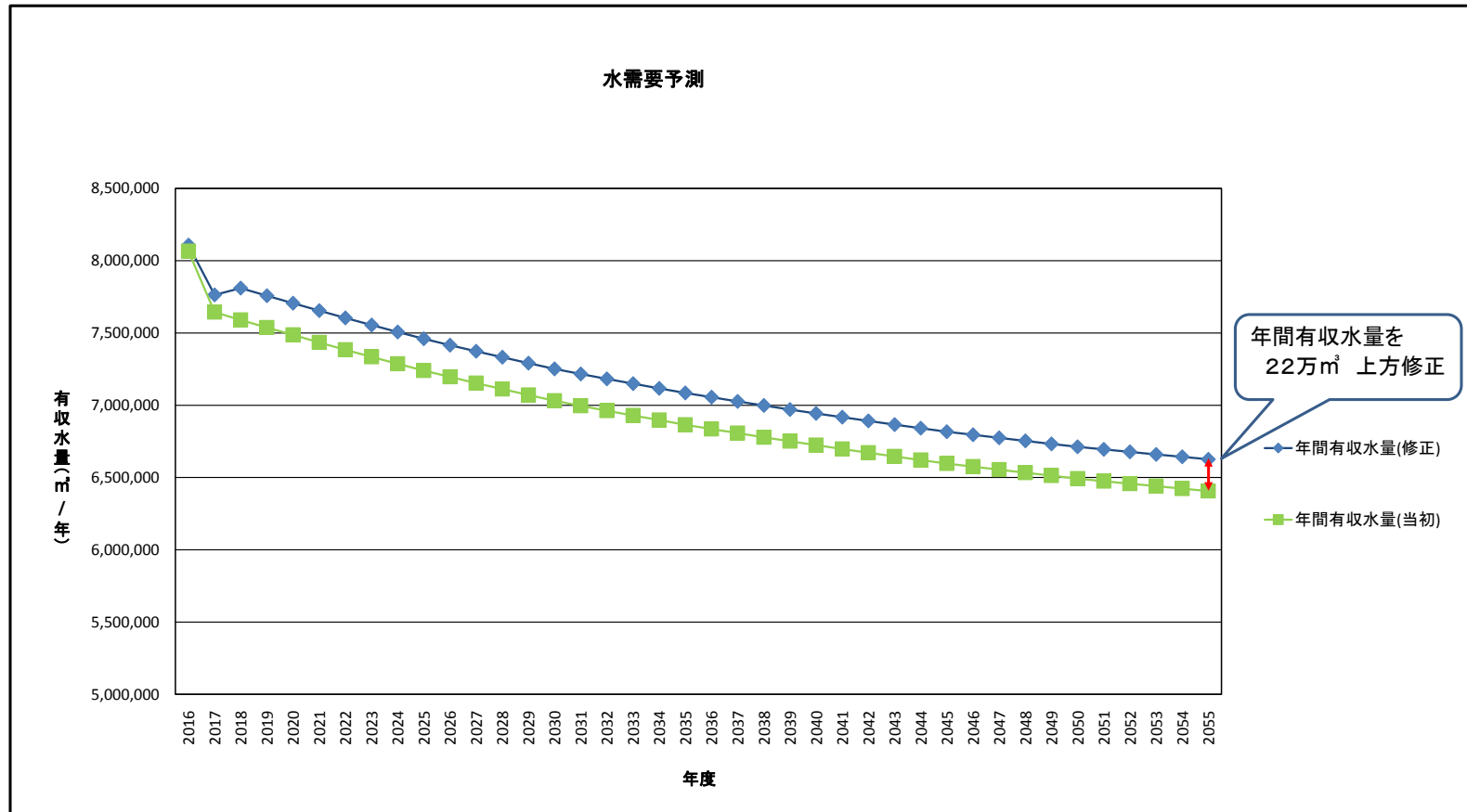


図1 水需要予測

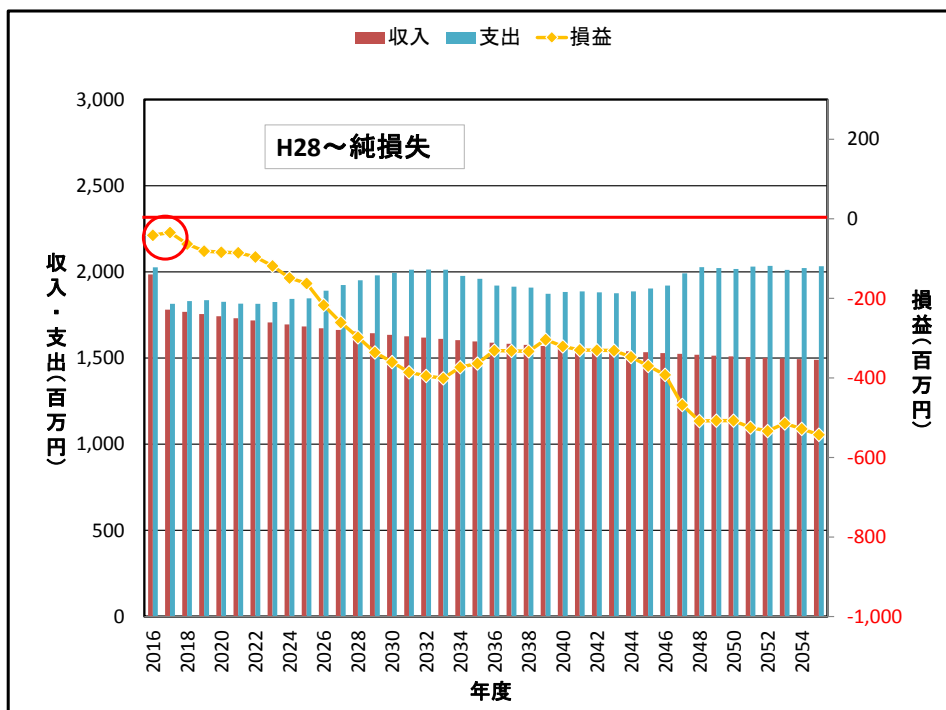
Ⅱ 収益的収支の比較(シミュレーション)

○ 図1の水需要予測に基づいて、新たに平成28年度決算・平成29年度補正予算を加え、シミュレーションを行いました。

(1) 料金据置ケース

当初シミュレーションでは平成28年度以降から純損失が生じていたが、平成28年度決算は1億円余りの純利益となり平成29年度についても黒字の見通しとなるので、水需要を上方修正したことにより修正シミュレーションでは平成35年度(7年後)以降から純損失が生じた。

当初シミュレーション



修正シミュレーション

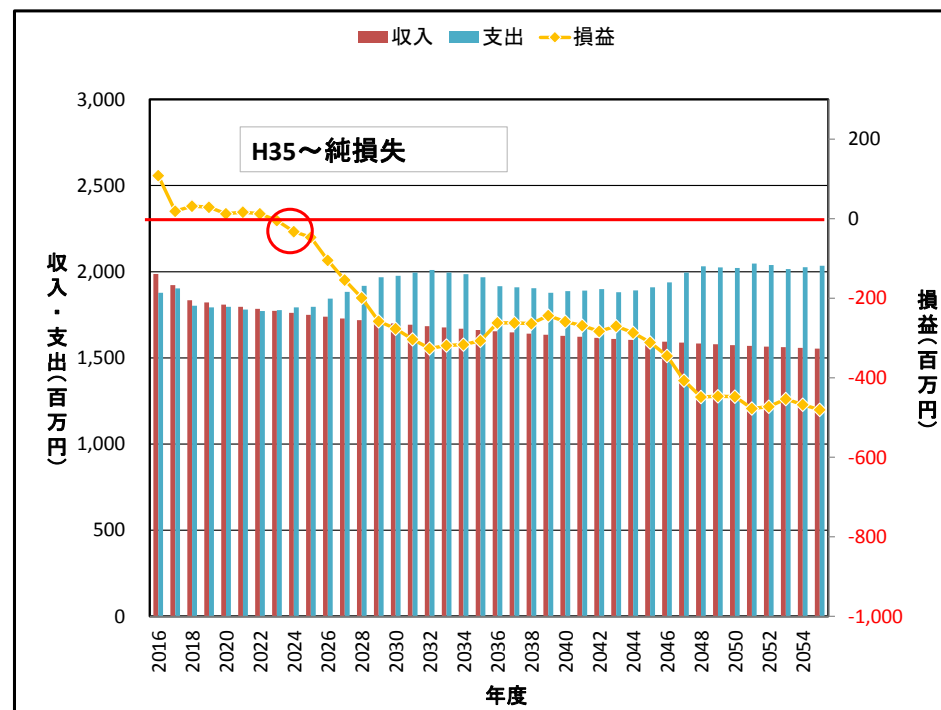
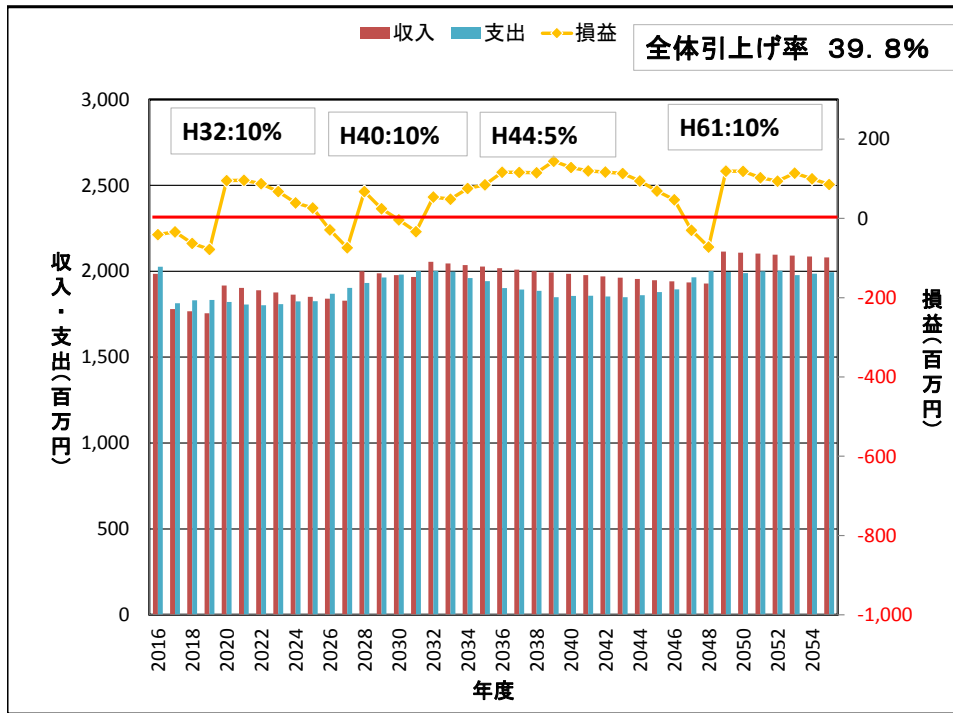


図2-1 収益的収支(料金据置ケース)

(2) 財源確保ケース①(初回引上げ率10%の場合)

当初シミュレーションでは、最初の料金の見直しが平成32年度であったが、修正シミュレーションでは平成37年度(5年後)に推移した。また、料金の見直し回数についても4回から3回に減少し、全体の料金引上げ率も当初シミュレーションでは39.8%であったが、修正シミュレーションでは33.1%に減少した。

当初シミュレーション



修正シミュレーション

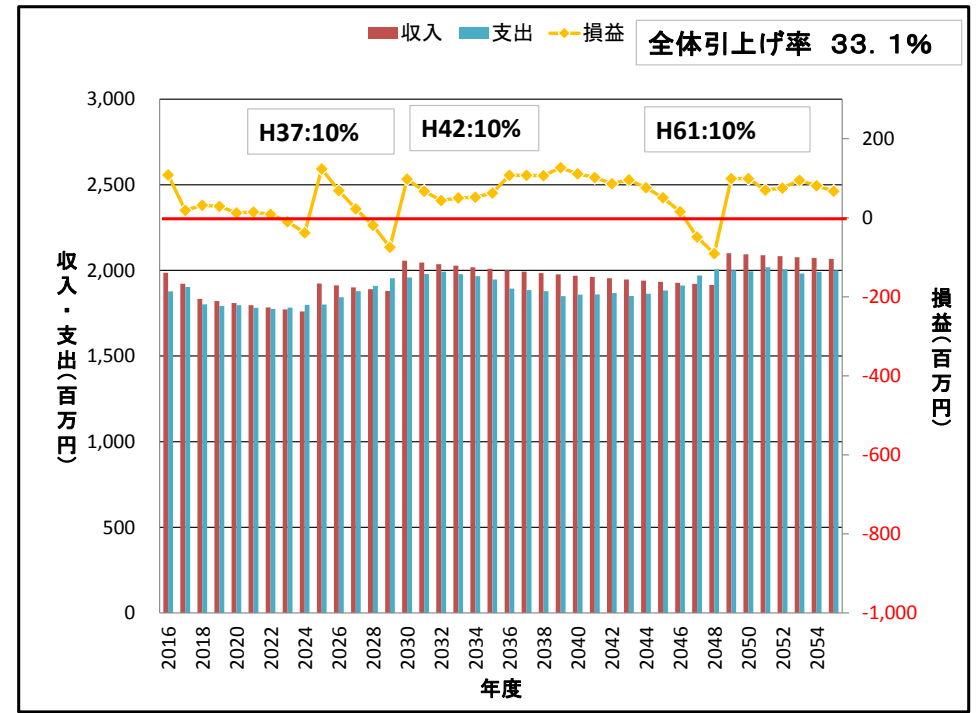
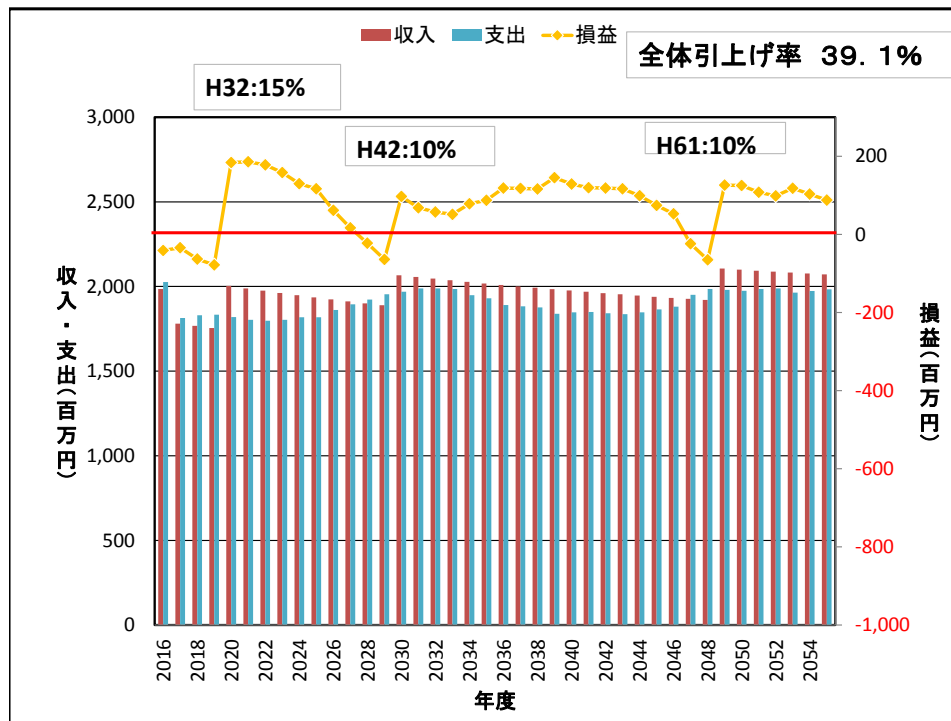


図2-2 収益的収支(財源確保ケース①)

(3) 財源確保ケース②(初回引上げ率15%の場合)

当初シミュレーションでは、最初の料金の見直しが平成32年度であったが、修正シミュレーションでは平成37年度(5年後)に推移した。また、全体の料金引上げ率についても当初シミュレーションでは39.1%であったが、修正シミュレーションでは32.8%に減少した。

当初シミュレーション



修正シミュレーション

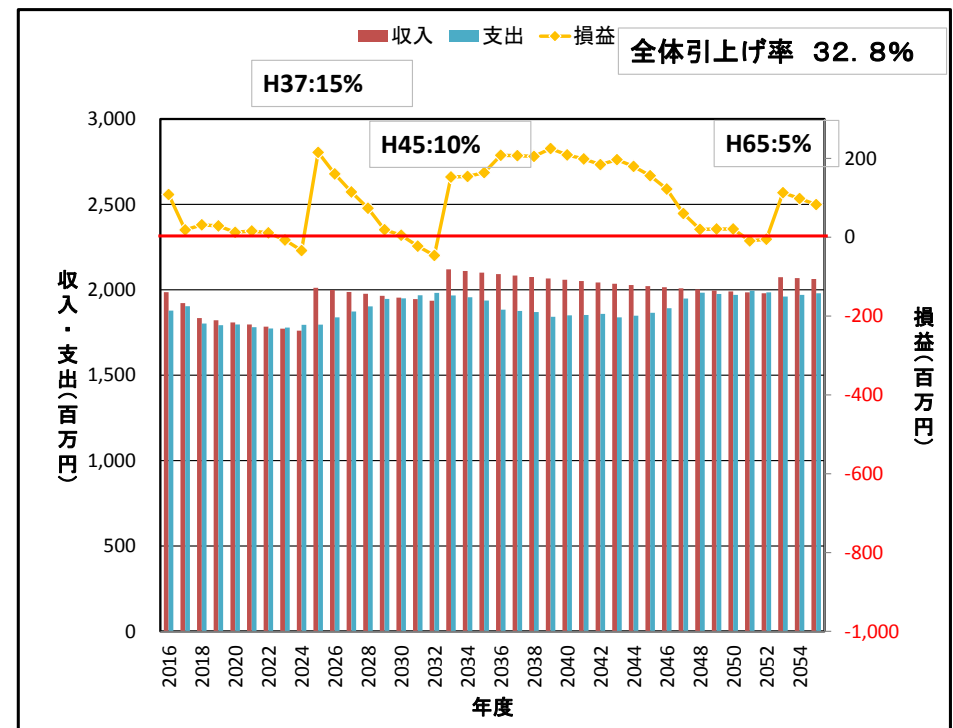


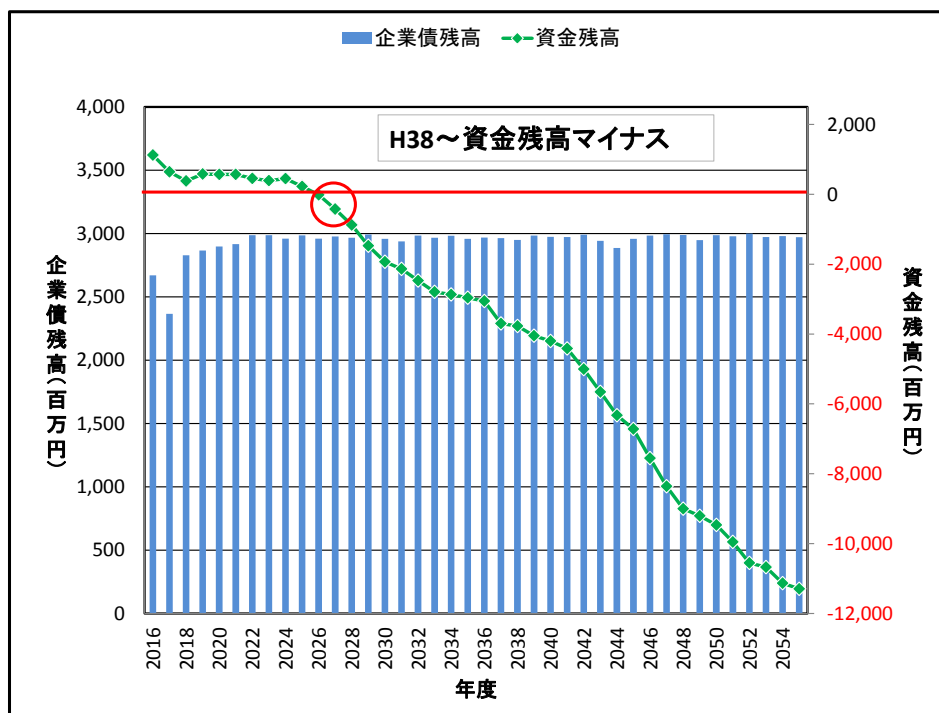
図2-3 収益的収支（財源確保ケース②）

Ⅱ 企業債残高・資金残高の比較(シミュレーション)

(1) 料金据置ケース

当初シミュレーションでは、資金残高が平成38年度以降にマイナスになっていたが、修正シミュレーションは、平成42年度以降（4年後）に推移し、企業債の借入についても抑制できる。

当初シミュレーション



修正シミュレーション

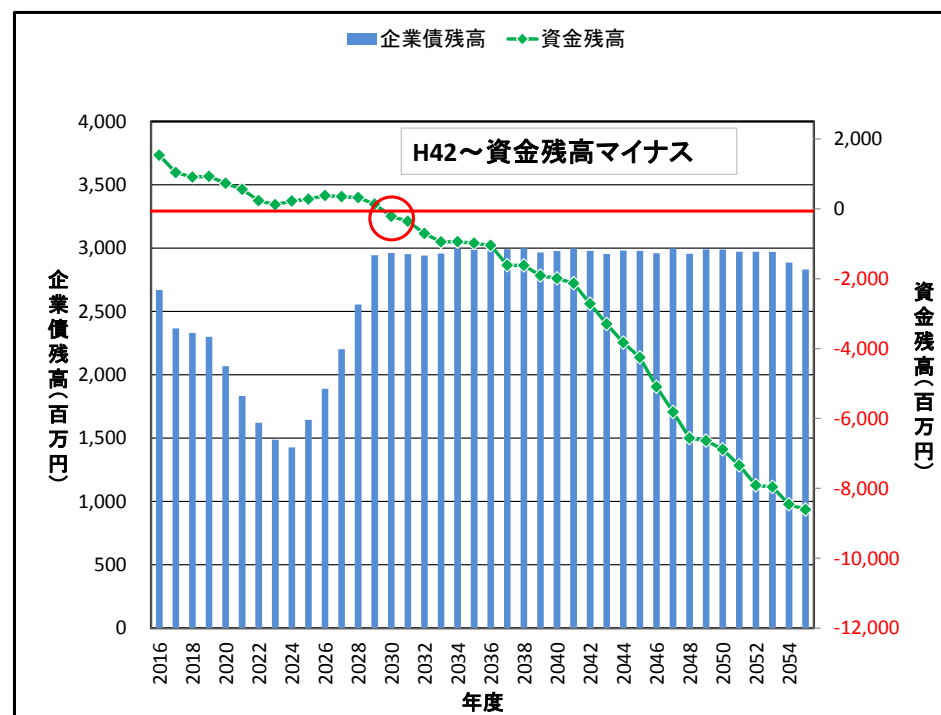
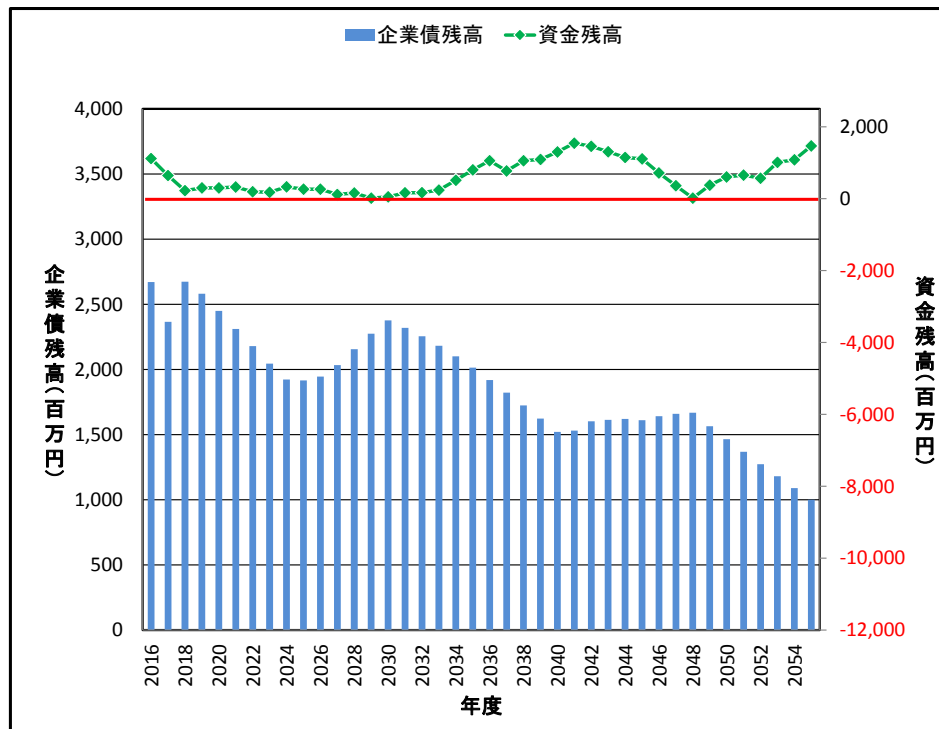


図3-1 企業債残高・資金残高（料金据置ケース）

(2) 財源確保ケース①(初回引上げ率10%の場合)

資金残高がマイナスにならないように企業債の借入を行い、当初シミュレーションよりも企業債の借入を抑制できる。

当初シミュレーション



修正シミュレーション

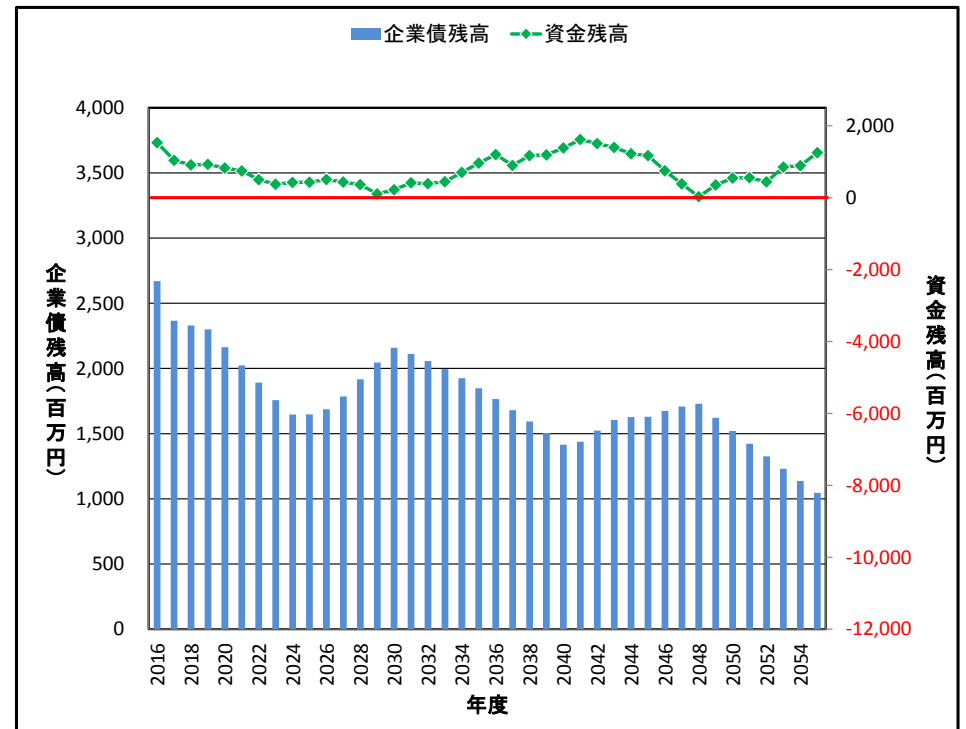
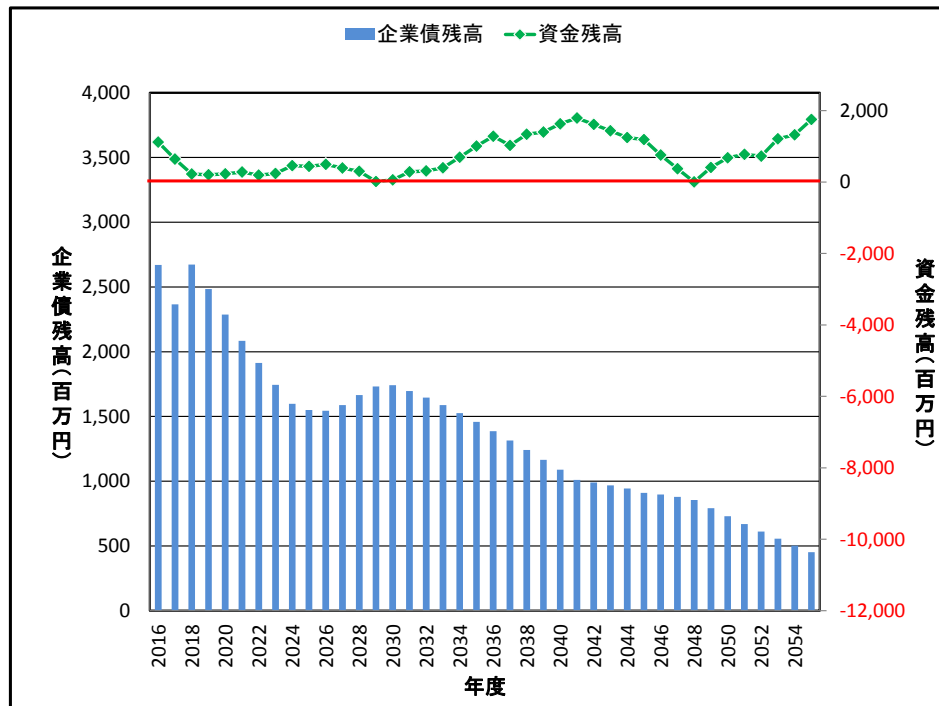


図3-2 企業債残高・資金残高(財源確保ケース①)

(3) 財源確保ケース②(初回引上げ率15%の場合)

資金残高がマイナスにならないように企業債の借入を行い、当初シミュレーションよりも企業債の借入を抑制できる。

当初シミュレーション



修正シミュレーション

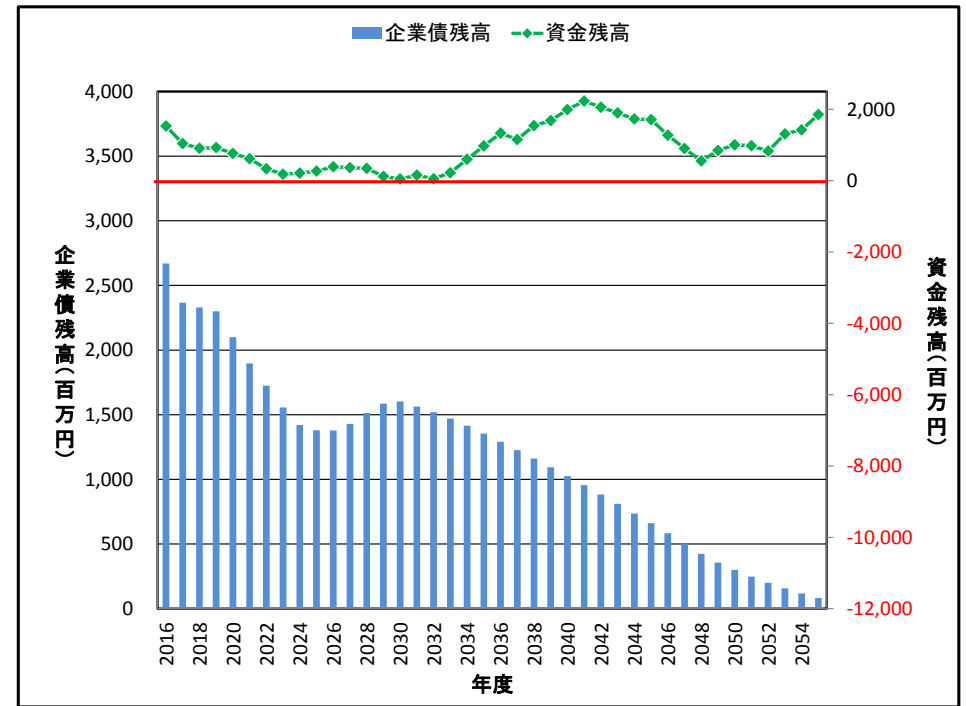


図 3 - 3 企業債残高・資金残高 (財源確保ケース②)

県域水道一体化構想

資料3

年度	工 程
～H28	地域単位での広域化の推進(磯城郡など)
H29	「県域水道一体化の目指す姿と方向性」の提示 ←現時点の提示 一体化に向けた検討に関する合意形成
H30	新県域水道ビジョン策定(水道事業基盤強化計画)
H31	一体化推進協議会設立 一体化までのロードマップ作成
H32	一体化に関する覚書(39市町村+県) 一体化施設整備計画策定
H33	一体化施設整備開始
H34	(磯城郡3町経営統合)
H35	
H36	(五條市・吉野町・大淀町・下市町+県による広域化) 経営母体設立基本協定
H37	
H38	上水道の経営統合(垂直統合) ・1事業体で28上水道事業を経営 ・簡易水道の受皿



10年以内のできるだけ早い時期に上水道の事業統合を目指す
 ・1事業体で1上水道事業を経営
 ・水道料金統一

県域水道一体化の目指す姿と方向性



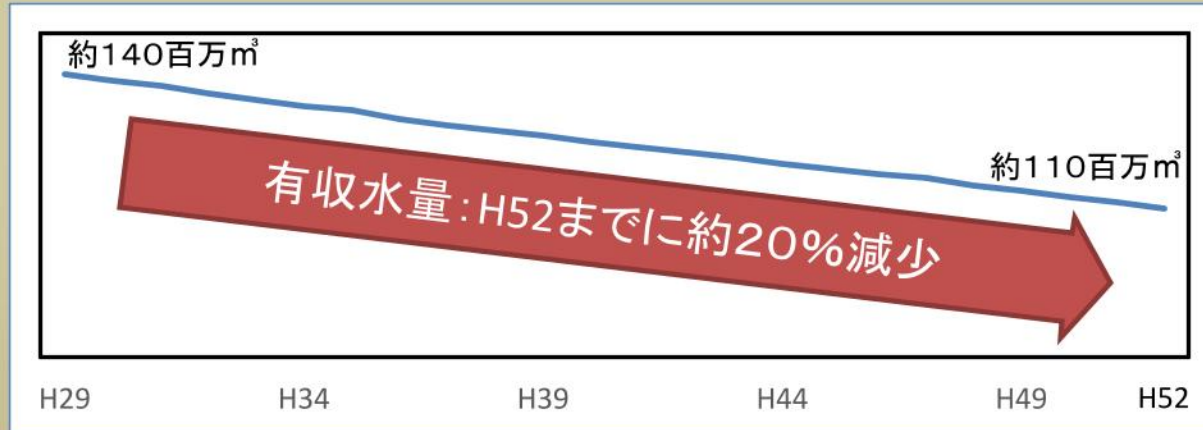
平成29年10月

奈良県

I 水道事業が抱える課題と対応の方向性

水道事業が抱える課題

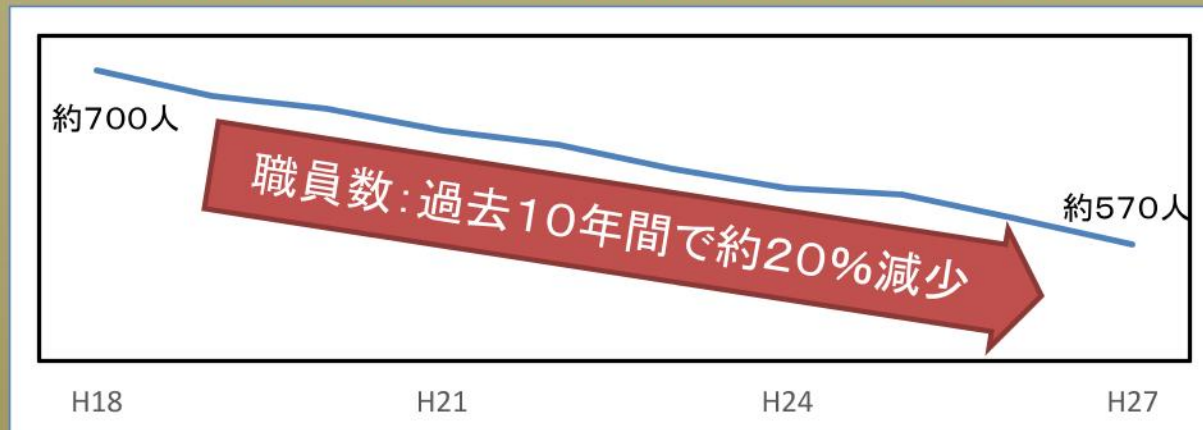
◆人口減少等による水需要の減少



◆老朽化施設の更新や耐震化対応による投資費用の増大



◆職員の減少、退職に伴う技術力低下、人員不足



単独での水道事業継続が困難

(上記課題に対する対応が厳しい、料金的大幅値上げの可能性大)

水道の一体化を推進

(県域水道ファシリティマネジメントをより進化させる)

- ◆業務の効率化(各種システム統合、業務の統合等)を推進
- ◆施設投資の最適化をより推進
(施設共同化による統廃合、ダウンサイジング)
- ◆水源の適正化を達成(基幹浄水場への集約)

Ⅱ 一体化の目指す姿

目標

県営水道と奈良市営水道の浄水場(水源)に集約

県営水道エリア

一体化

目標

先行して県と1市3町の企業団設立(検討中)

五條吉野エリア

簡易水道エリア

受皿組織設立

目標

- ・業務の効率化
- ・持続可能な体制づくり

県営水道と市町村水道の統合

県営水道エリア

- 浄水場(水源)の統廃合
- 送配水施設の効率化

五條吉野エリア

- 水源確保と施設の共同化(検討中)

簡易水道エリア

- 業務支援(技術支援・業務委託)内容の具体化
- 広域的な支援体制の構築

●管理・運営の
統合

●水質管理の統合

上水道の一体化
(組織・体制の統合)

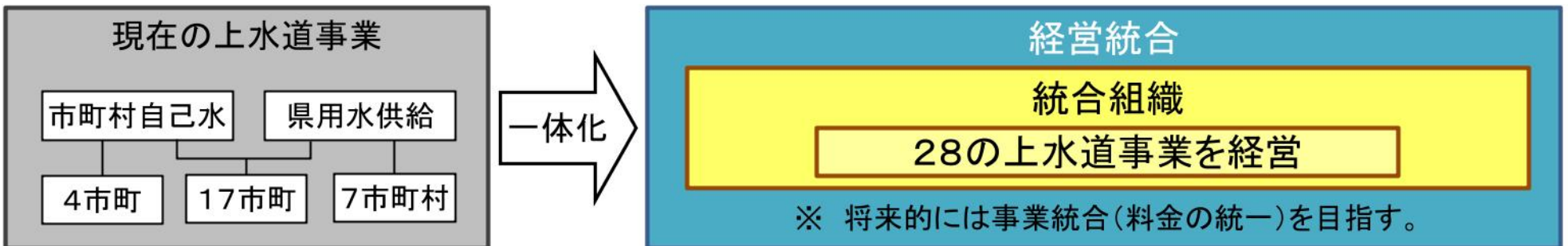
受皿組織
設立

Ⅲ 上水道の一体化の方向性

広域化の項目	構想
1. 組織・体制の統合	・県と上水道実施28市町村による垂直統合
2. 浄水場(水源)の集約	・県営水道エリアは3つの浄水場に集約(県営水道の2浄水場と奈良市浄水場) ・五條・吉野エリアは既存浄水場を活用
3. 送配水施設の効率化	・配水池容量(H52水量比)を現状の35時間容量から18時間容量に削減 ・管路のダウンサイジング
4. 管理・運営の統合	・5箇所の拠点による広域監視 ・各種システム共同化
5. 水質管理の統合	・公的検査機関(3機関)を統合

平成29～52年度の24年間の経費(投資・運転)の削減額は約800億円
(現在取組中の県域水道ファシリティマネジメントによる削減額含む。今後の検討によって変動する。)

1. 組織・体制の統合



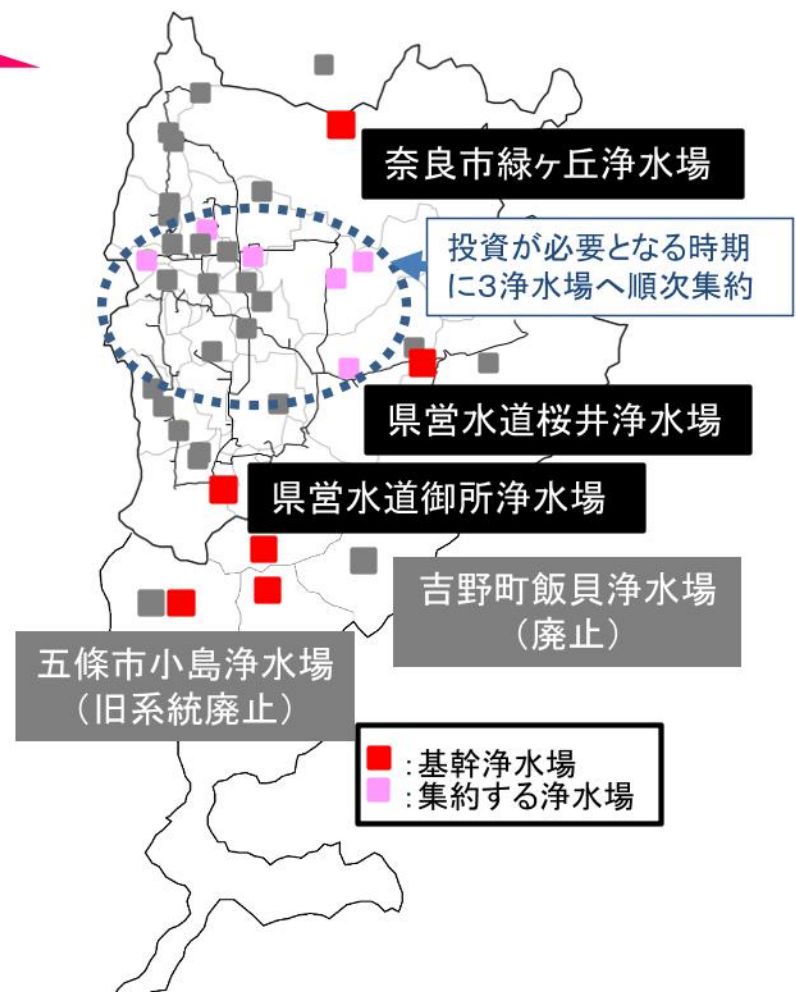
2. 浄水場(水源)の集約

集約案(県営水道エリア)

- 3浄水場(奈良市緑ヶ丘、県御所・桜井)に集約
- 上記以外の浄水場については廃止を検討。廃止時期は、浄水場の更新又は大規模改修が必要となる時期を想定
(多額の投資無しで活用できる間は、活用)

集約案(五條・吉野エリア)

- 吉野町飯貝浄水場を廃止
- 五條市小島浄水場をダウンサイジング



3. 送配水施設の効率化

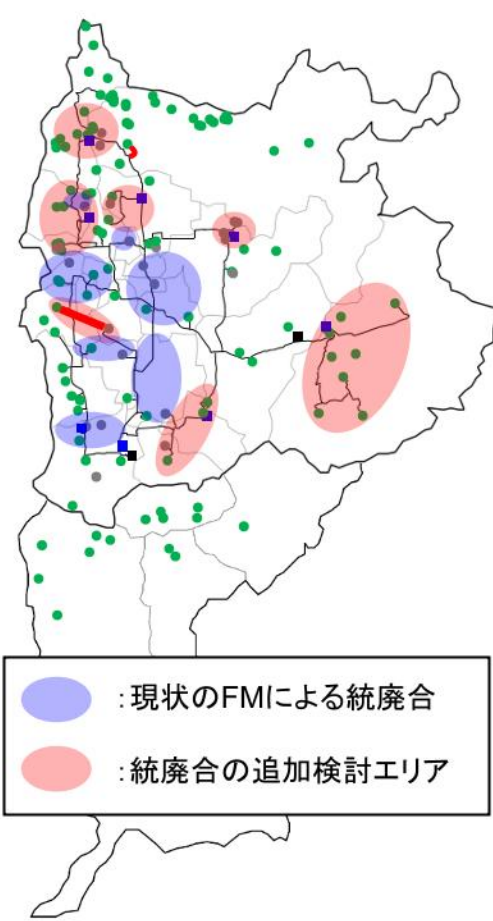
配水池の効率化案

- 県及び市町村の垣根を越えて、配水池の統廃合及びダウンサイジングを検討
- 現状のファシリティマネジメントの取組に加えて、地形を考慮した「統廃合の追加検討エリア」を提案
- さらなる統廃合及びダウンサイジングを検討
(標高が低い配水池は統廃合、標高が高い配水池はダウンサイジング)

県域全体の配水池容量を18時間程度(H52水量比)に適正化
(現状は35時間で過大)

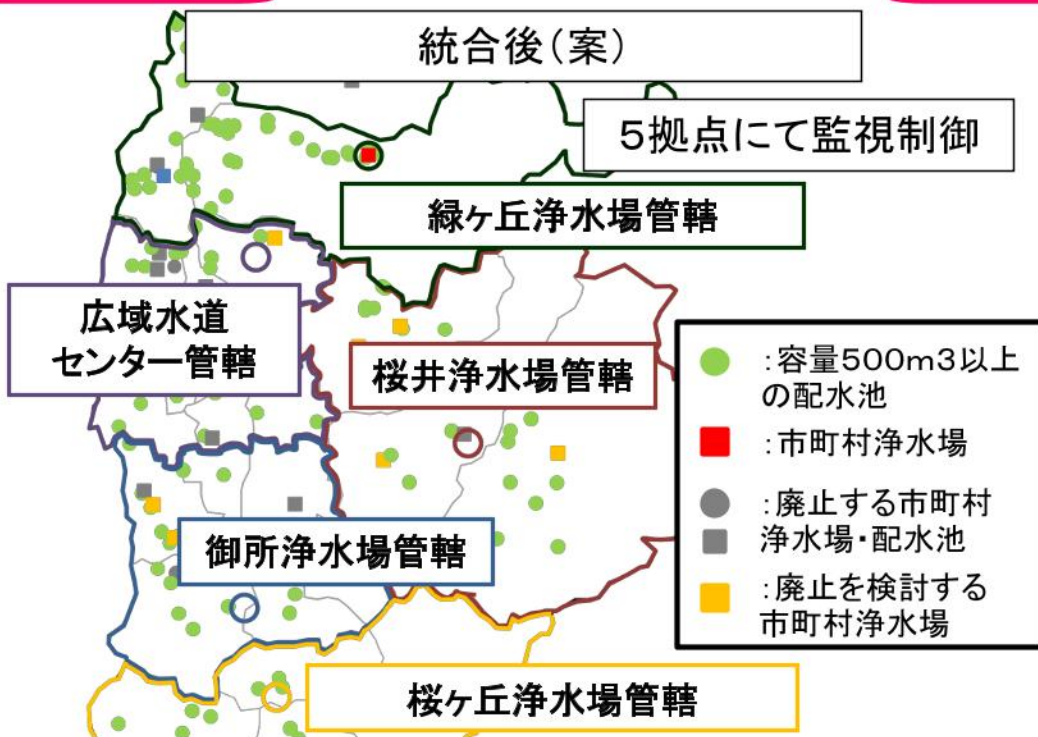
管路の効率化

水需要の減少を考慮し、管路更新時にダウンサイジング
(消火栓を考慮し、Φ100以下は現状維持)



● : 現状のFMIによる統廃合
● : 統廃合の追加検討エリア

4. 管理・運営の統合



広域監視体制の確立

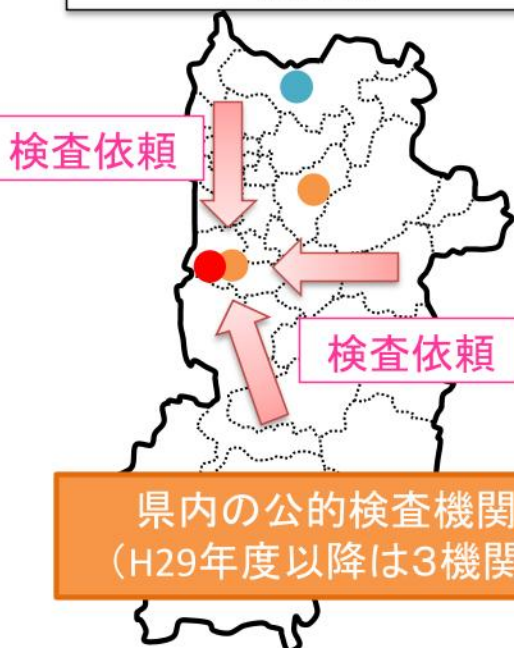
- 管理の拠点を5箇所(奈良市緑ヶ丘、大淀町桜ヶ丘、県御所・桜井・広域水道センター)に集約
- 5拠点到集中監視制御システムを構築

各種システムの共同化

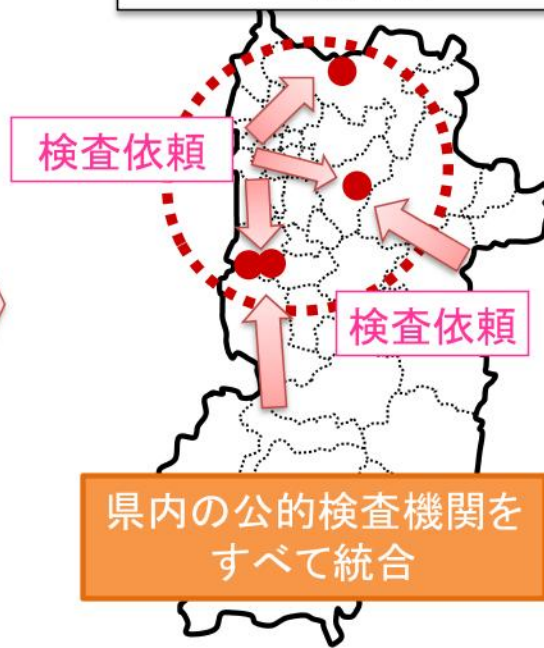
- 水道事業に関するシステム(設計積算・料金・マッピング)を共同化
- 内部事務システム(財務会計や文書管理)を共同化・電子化

5. 水質管理の統合

統合前



統合後



統合案

- 県内の公的水質検査機関(3機関)を統合
- 水質検査箇所を1箇所から3箇所に増設

IV 簡易水道の体制強化

支援体制の確立

県内水道事業体が実施する4つの支援制度を確立し、計画立案から維持管理まで総合的に体制補強を図る

- 計画策定・設計支援
- 工事代替執行
- 維持管理支援
- 応急対応支援

将来構想検討

支援制度による体制補強を基礎として、以下の視点で簡易水道エリア全体の将来構想を検討

【施設面】

簡易水道施設を地理的条件・管理実態により、「施設共同化対象施設」、「長寿命化対象施設」、「その他(代替手法検討施設 等)」に分類

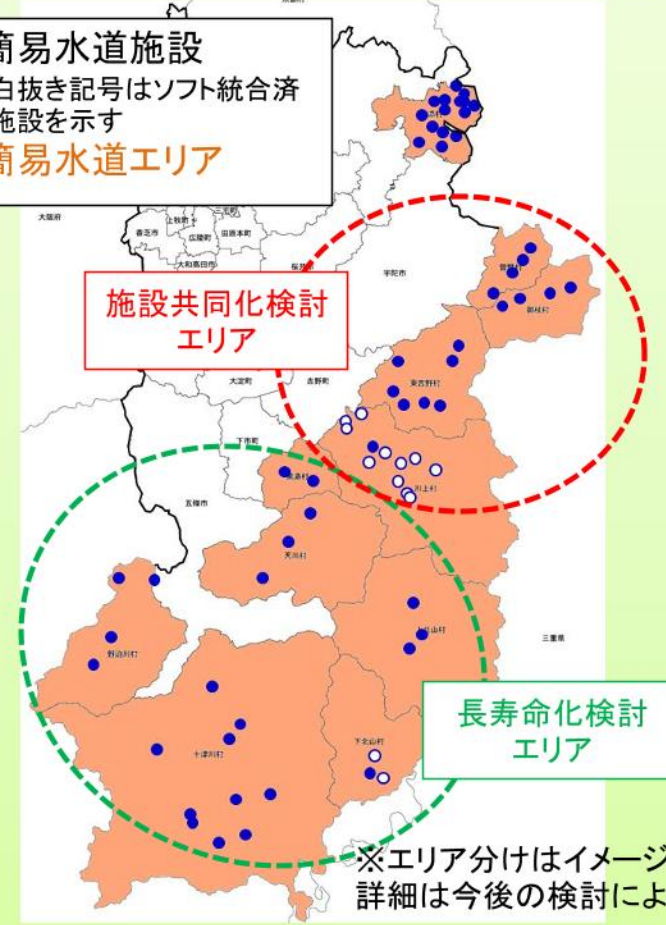
【業務面】

支援が必要な業務や共同処理できる業務を抽出し、広域的な支援体制構築の実現可能性を検討

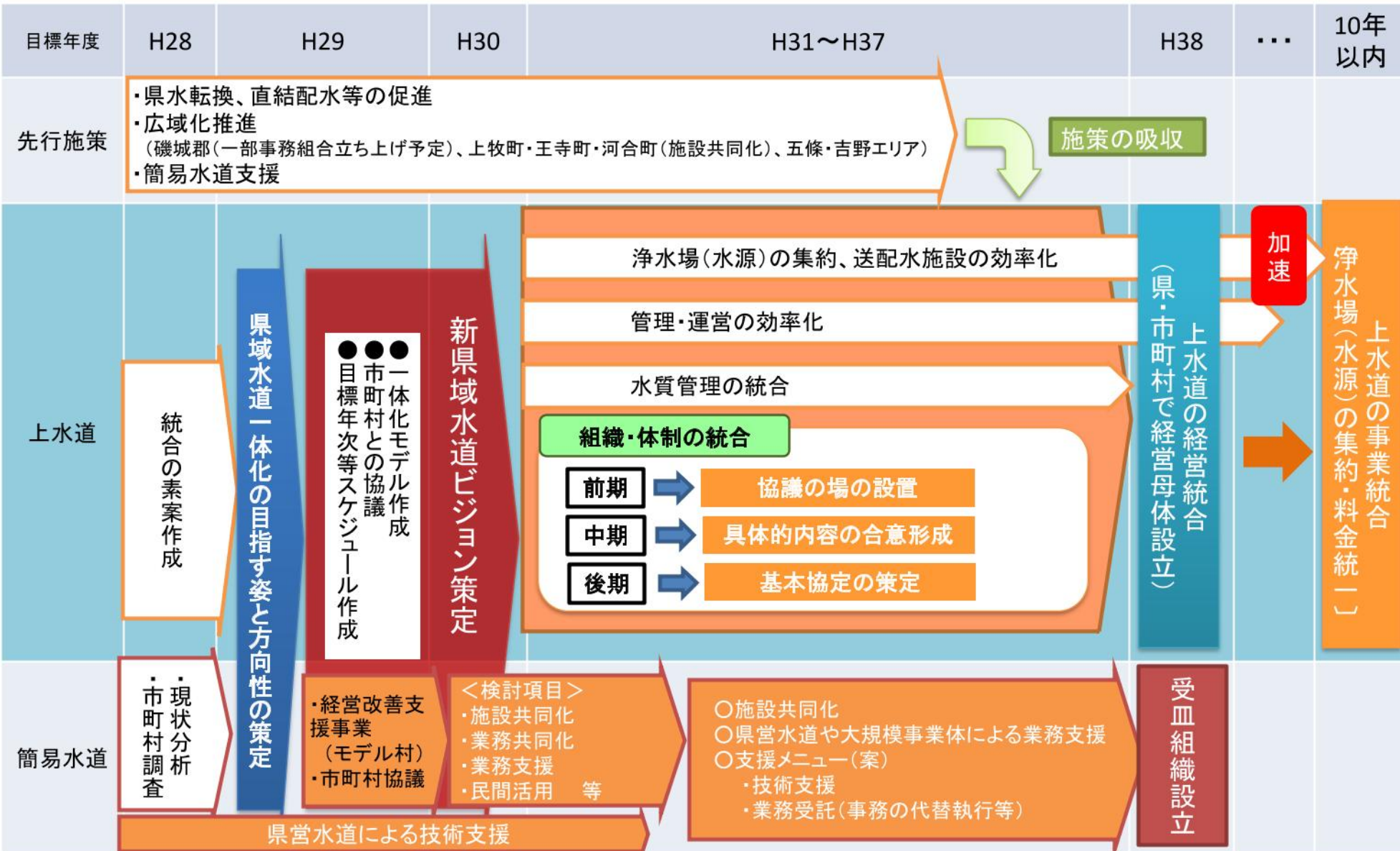
施設共同化・長寿命化の検討(イメージ)

簡易水道施設位置図
(飲料水供給施設含まず)

- : 簡易水道施設
※白抜き記号はソフト統合済の施設を示す
- : 簡易水道エリア



V 県域水道一体化スケジュール



県域水道一体化構想

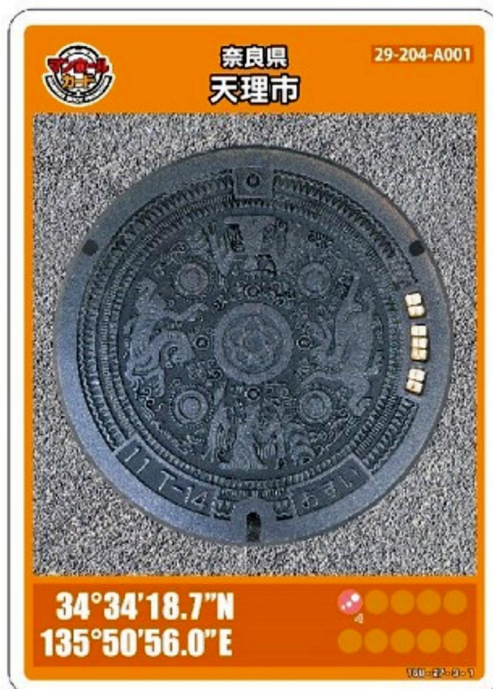
年度	工 程
～H28	地域単位での広域化の推進(磯城郡など)
H29	「県域水道一体化の目指す姿と方向性」←現時点の提示 一体化に向けた検討に関する合意形成
H30	新県域水道ビジョン策定(水道事業基盤強化計画)
H31	一体化推進協議会設立 一体化までのロードマップ作成
H32	一体化に関する覚書(39市町村+県) 一体化施設整備計画策定
H33	一体化施設整備開始
H34	(磯城郡3町経営統合)
H35	
H36	(五條市・吉野町・大淀町・下市町+県による広域化) 経営母体設立基本協定
H37	
H38	上水道の経営統合(垂直統合) ・1事業体で28上水道事業を経営 ・簡易水道の受皿
↓	
10年以内のできるだけ早い時期に上水道の事業統合を目指す ・1事業体で1上水道事業を経営 ・水道料金統一	

天理市のマンホールカード

天理市の南部、黒塚古墳から出土した重要文化財「三角縁神獣鏡」の文様をデザインしたマンホール蓋を掲載しています。

三角縁神獣鏡は、邪馬台国の女王、卑弥呼の鏡との説があり、1997年から1998年に行われた発掘調査で33面の鏡が出土しました。文様によっていくつかの種類に分けられますが、蓋には黒塚古墳でのみ出土している三角縁神人龍虎画像鏡の文様をデザインし、中央に市章を入れています。

このマンホール蓋は日本最古の道として知られ、古社寺や万葉歌ゆかりの地といった名所が点在し、四季折々の趣をもつ「山の辺の道」などに設置しています。



〈オモテ〉



〈ウラ〉